

平成 29 年 6 月 29 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380680

研究課題名(和文) 沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係 - フィリピン人女性を中心に -

研究課題名(英文) Transnational migration to the Sakisima islands from Phillipine

研究代表者

野入 直美 (NOIRI, Naomi)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：90264465

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：フィリピン人女性の移動、定住とネットワーク化において、日本本土の大都市圏のフィリピン人と比較した場合の島嶼型の特徴は、人口規模の小ささ、相互扶助と親睦関係の緊密さ、移動の経緯および属性における同質性の高さ、多文化共生や外国人支援などの文脈が地域にないこと、フィリピン女性自身によって能動的に編み出されたユニークなネットワークが見いだされることである。大都市圏との共通点としては、興行ビザによる入国・結婚による定住がひとつのパターンとして見いだせることと、カトリック教会の重要性が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：We analyze their living by focusing on their network, leadership, and the next generation inheritance. In Ishigaki and Miyako Island there is a family worship called “Rozalio” which is based on Catholicism, and “Moai” which you reunite and have mutual aid loans, and a network composed by Filipino women who experienced a performance in the same production. The leaders who supports these groups are relatively well-educated, economically stabled in common, and skillfully play the leadership with each other. In this manuscript, we will reveal the structure of Ishigaki and Miyako Island’s network and leadership. Also, by quoting the talks with children and female leaders, we will analyze the challenges over the next generation inheritance of ethnicity, especially the experience of second generation that cannot access the Philippines Roots.

研究分野：社会学

キーワード：フィリピン女性 島嶼 沖縄 移住 ネットワーク

### 1. 研究開始当初の背景

沖縄県の宮古・八重山に居住するフィリピン人は、外国人登録者数で見ると、石垣市、外国人登録者数 271 人中フィリピン 62、宮古島市、外国人登録者数 176 人中フィリピン 77 であり、外国人人口としてはきわめて小規模である。一方で、外国人登録者におけるフィリピン比率は、沖縄における先島地域が、日本本土における外国人が多数、集住する大都市を上回るのである。地理的に孤絶し、失業率が高く、若い世代の流出が著しい島々には、他にほとんど外国人がいなくても、必ずと言っていいほどにフィリピン人女性が国際結婚で住みついている。このような人口動態は、本研究以前にはほとんど着目されることがなかった。本研究は、沖縄の先島地域におけるフィリピン人女性たちの実態を初めて明らかにするものであり、国内外において汎用性のある、外国人女性の〈島嶼型散住〉の類型を析出するものとなった。全国的には、従来の研究におけるフィリピン人女性の国際結婚は〈農村型散住〉と〈都市型集住〉に大別できたが、これらの類型間の十分な比較検討は行われてきていなかった。本研究は、〈島嶼型散住〉という第三の類型を設けることで、総合的なフィリピン人女性の国際結婚研究の萌芽となった。

### 2. 研究の目的

本研究では、沖縄県の宮古・八重山をフィールドとし、島嶼におけるフィリピン女性結婚移民の移動の経路、フィリピン女性どうしのネットワーク、カトリック教会や婦人団体を介した地域社会との相互行為、次世代への信仰と文化の継承について分析を試みた。

### 3. 研究の方法

本研究では、これまで総合的に研究されてこなかった〈島嶼地域、とくに沖縄の先島地域におけるトランスナショナルな人の移動と社会関係〉を、フィリピン人女性の国際結婚を中心に明らかにした。具体的には、(1)彼女らの移動の経路と島嶼型散住の実態を把握した。(2)国際結婚、ホスト社会への入り込み、子育てと就労を著しい島嶼型散住の特徴を抽出した。(3)キリスト教教会を介したフィリピン人女性と日比ダブルの子どもたちのネットワーク化、地域住民との相互行為の展開を明らかにし、孤立した環境の下で絆を形成しようとする、社会関係の担い手としてのフィリピン人女性の意識や行為を明らかにした。

### 4. 研究成果

(1) 沖縄の先島地域におけるフィリピン人女性の定住の分布とトランスナショナルな移動の経路を、地理学的な手法

によって明らかにした。(2)トランスナショナルな移動、国際結婚と子育て、ホスト社会への入り込みとネットワーク化についてのマイクロデータを収集・分析した。なかでも、以下のテーマを中心的に扱った。

「国際結婚と移動」：在日フィリピン人研究に蓄積のある高畑幸が担当し、これまでフィールドとしてきた都市部(名古屋市栄町など)との比較を通じて先島地域における特徴を析出した。

「子どもの教育」：公立学校で外国人生徒の支援と参与観察を行ってきた矢元貴美(大阪大学博士後期課程)が担当し、学校現場における日比ダブルやフィリピンからの「連れ子」の子どもたちの状況と支援のニーズを明らかにした。

「家族・親族関係と文化継承」：野入が担当し、母語/継承語やアイデンティティの問題が家庭の領域でいかに位置づいているのかを明らかにした。

「キリスト教教会を介したネットワーク化」：在日朝鮮人のキリスト教信仰を研究してきた中西尋子(関西学院大学非常勤講師)が担当し、ネットワークにおける教会の機能を明らかにした。

「地域社会とフィリピン人女性たち」：石垣島に在住し、地域社会と台湾系住民との関係について報道と執筆を行ってきた松田良孝(八重山毎日新聞記者)が担当し、台湾系住民との比較を通じて、フィリピン人女性をめぐる地域関係の特徴を明らかにした。

石垣島には、フィリピン女性が移住してくるより先に、1930年代からパイナップル産業に関連して台湾人が移住してきていた。彼らオールドタイマーとフィリピン人との違いは、後者において圧倒的に女性が多く、性別の偏りが極めて大きいこと、地場産業を経路としている前者に対し、後者は結婚移民、それもフィリピン女性どうしの血縁や知人・友人関係を介したチェーン・マイグレーションが見いだされること、前者は4世、5世の世代に至っているのに対し、フィリピン女性は移住者1世が40代を中心に現役世代であり、定住やネットワーク化、文化継承についても現在進行形で展開がなされつつあることが挙げられる。地域社会との関係については、石垣島ではカトリック教会を介した地元信者とフィリピン人信者との相互行為、協働や信頼関係が見いだせる。フィリピン人女性どうしのネットワーク化は、教会の英語ミサ、ロザリオと呼ばれる持ち回りの家庭礼拝、教会附属小学校に子どもを通わせる母親どうしのつながり、模合などの複数のつながりがあり、二名の献身的なリーダーがそれらを統括している。一方で、地域社会においては、フィリピン女性は地元男性の妻として、地元の子どもの母として、また職場における中

堅の働き手として位置づいているが、フィリピン人としてのエスニシティはほとんど顕在化することがない。

これに対して宮古島では、カトリック教会よりも婦人団体が、フィリピン女性と地域社会の結節として機能している。フィリピン女性のリーダーは、地域の婦人団体においても役職につくなどして、積極的に貢献している。また、宮古島のフィリピン女性たちはダンスグループを組織し、市民劇場や行事の催しでフィリピンのダンスを披露しており、地域におけるエスニシティの顕在という面では石垣島よりも存在感がある。一方で、カトリック教会については、フィリピン女性たちは教会のミサよりもフィリピン人シスターが組織する修道院における教会模合によく集っており、地元信者との相互行為については石垣島の方が活発である。

フィリピン人女性の移動、定住とネットワーク化において、日本本土の大都市圏のフィリピン人と比較した場合の島嶼型の特徴は、人口規模の小ささ、相互扶助と親睦関係の緊密さ、移動の経緯および属性における同質性の高さ、多文化共生や外国人支援などの文脈が地域にないこと、フィリピン女性自身によって能動的に編み出されたユニークなネットワークが見いだされることである。大都市圏との共通点としては、興行ビザによる入国・結婚による定住がひとつのパターンとして見いだせることと、カトリック教会の重要性が挙げられる。

信仰と文化の次世代継承については、まだ移住第一世代が現役であるため、今しばらく推移を見守る必要がある。現時点で言えることは、第二世代は、幼少期においてはフィリピン人の母親に教会に伴われ、幼児洗礼を受けていても、進学で島を離れるときに、少なくともひとたびは教会から離れている若者が多いこと、フィリピン語を継承している若者はきわめて例外的にしか存在しないことである。

#### 5. 主な研究成果

〔雑誌論文〕(計 8 件)

1. 野入直美、2016、「沖縄・先島諸島で暮らすフィリピン人女性たちの生活世界：ネットワーク、リーダーシップと次世代継承を中心に」(特集 沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係：フィリピン人女性を中心に)『移民研究』11：7-36、査読有
2. 高畑幸、2016、「沖縄・先島諸島のフィリピン人女性たち：島の結婚移民として」(特集 沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係：フィリピン人女性を中心に)『移民研究』11：37-53、査読有
3. 矢元貴美、2016、「フィリピンにルーツを持つ子どもの離島における社会関係：沖縄県に暮らす障がいのある小学生の事例から」(特集 沖縄・先島地域のトランスナシ

ナルな移動と社会関係：フィリピン人女性を中心に)『移民研究』11：81-99、査読有

4. 松田良孝、2016、「沖縄県石垣島にみられるフィリピン人ネットワークの態様：カトリック信仰を核に構築されたつながり」(特集 沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係：フィリピン人女性を中心に)『移民研究』11：55-67、査読有

5. 中西尋子、2016、「結婚移民のフィリピン人女性の増加とカトリック教会」(特集 沖縄・先島地域のトランスナショナルな移動と社会関係：フィリピン人女性を中心に)『移民研究』11：69-80、査読有

6. 高畑幸、2015「人口減少地域におけるフィリピン人結婚移民と新日系人の定住」『国際関係・比較文化研究』13(2)：1-19、査読無

7. 高畑幸、2015、「人口減少時代の日本における「移民受け入れ」とは 政策の変遷と定住外国人の居住分布」『国際関係・比較文化研究』14.1：141-157、査読無

8. 野入直美、2014「アメラジアンの子どもの育てるといふこと 日本人の母親によって経験された相互行為」『異文化間教育』39：33-50、査読有

〔学会発表〕(計 6 件)

1. 矢元貴美「フィリピンにルーツを持つ子どもの離島における社会関係 沖縄県に暮らす障がいのある小学生の事例から」第21回フィリピン研究会全国フォーラム、2016年6月26日、鹿児島大学(鹿児島県鹿児島市)

2. 高畑幸「宮古のフィリピン人女性たち～連鎖移動を中心に」第21回フィリピン研究会全国フォーラム、2016年6月26日、鹿児島大学(鹿児島県鹿児島市)

3. 高畑幸「沖縄・先島諸島で暮らすフィリピン人女性たち(1)過疎地の結婚移民として」日本社会学会、2015年9月19日、早稲田大学(東京都新宿区)

4. 野入直美「沖縄・先島諸島で暮らすフィリピン人女性たち(2)フィリピン女性たちの生活世界」2015年9月19日、早稲田大学(東京都新宿区)

5. 野入直美「沖縄・先島で暮らすフィリピン人女性たち(1)台湾系住民との比較を中心に」日本移民学会第24回年次大会、2014年6月29日、和歌山大学(和歌山県和歌山市)

6. 高畑幸「沖縄・先島で暮らすフィリピン人女性たち(2)本土都市圏在住者との比較を中心に」日本移民学会第24回年次大会、2014年6月29日、和歌山大学(和歌山県和歌山市)

〔図書〕(計 2 件)

1. 高畑幸、2015、「グローバル化と家族の変容」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣、252頁(79-95頁)

2. 谷富夫・安藤由美・野入直美編著、2014、

『持続と変容の沖縄社会』ミネルヴァ書房、  
320頁(23-44頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

野入 直美(NOIRI, Naomi)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号：90264465

##### (2) 研究分担者

高畑 幸(TAKAHATA, Sachi)  
静岡県立大学・国際関係学部・准教授  
研究者番号：50382007

##### (3) 連携研究者 なし( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

松田 良孝(MATSUDA Yoshitaka)  
八重山毎日新聞・記者  
矢元 貴美(YAMOTO Kimi)  
大阪大学大学院・博士課程  
中西 尋子(Nakanishi Hiroko)  
甲南女子大学・非常勤講師